

# 事務事業評価シート

評価実施年度：平成29年度

上位の施策名称 施策Ⅲ-1-1  
学校・家庭・地域の連携協力による教育の充実

## 1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 教育指導課管理監 (地域教育推進室長) 竹下 勝 電話番号 0852-22-5738

事務事業の名称	教育魅力化推進事業	
目的	(1) 対象	離島・中山間地域の市町村に存する県立高等学校及び当該市町村
	(2) 意図	中山間地域・離島の県立高校と意欲ある市町村が一体となって実施する高校魅力化の取り組みを引き続き支援し、対象高校を順次拡大するとともに、中山間地域・離島において高校魅力化と一体的・系統的に小中学校から高校・特別支援学校までを貫いて「教育の魅力化」に取り組む市町村に対して活動費等を交付して財政支援する。
事業概要	(1) 高校魅力化活動費交付金 中山間地域・離島の市町村に設置されている県立高等学校と地域が一体となって実施する高等学校魅力化の取組を支援。	
	(2) 教育魅力化支援交付金 中山間地域・離島の市町村が高校魅力化に併せて小中学校等における「教育の魅力化」を一体的・系統的に進める場合、その取組を財政支援。	
	(3) 統括プロデューサー配置費交付金 中山間地域・離島における「教育の魅力化」の取組を総合調整し、地域の機運を醸成するため、市町村が配置する統括プロデューサーの経費を支援。	

## 2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位	
1	指標名	県立高校への県外からの入学者数	目標値	151.0	162.0	174.0	187.0	200.0	人
	取組目標値								
	式・定義	県立高校への県外からの入学者数	実績値	151.0	184.0				
	達成率		100.0	113.6	-	-	-	%	
2	指標名	県立高校生の意識調査「学校生活に関するアンケート」	目標値			35.0	38.0	40.0	%
	取組目標値								
	式・定義	「自分の住んでいる地域をよくするために何をすべきか考えたことがある」という設問に肯定的に回答した者の割合	実績値		32.6				
	達成率		-	-	-	-	-	%	

## 3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費 (b) (千円)	0	122,209
うち一般財源 (千円)	0	122,209

## 4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	⑤今年度新規
---------------------	--------

## 5. 評価時点での現状 (客観的事実・データなどに基づいた現状)

- 平成28年度は離島・中山間地域の8つの高校において事業を実施し、魅力ある学校づくりにより、志願者数が増加し、定員充足率が向上した。
- 地域と連携して、地域交流をしたり地域の課題に取り組むことにより、地域への誇りや愛着、地域貢献意欲が醸成された。
- 県外生徒募集の成果が出始め、H22年度で54名だった県外入学者数 (当該年度の新入学生) は、H29年度で184名となった。

## 6. 成果があったこと (改善されたこと)

※前年度まで実施してきた「離島・中山間地域の高校魅力化・活性化事業」の成果として

- 各高校に配置された高校魅力化コーディネーターが機能し、各校の魅力化が進展 → 県外入学者増加 (都市部生徒の流入)
- 目的意識を持った生徒が増加し、学校に活気が生じ、部活や学園祭が活性化
- 県外入学者との交流を通じた地元生徒の姿容 (地元への貢献意欲の高まりなど意識が変革)
- 教員の指導意欲の高まり (授業、部活)
- 周辺自治体 (市部など) へ拡大していく気運の高まり

## 7. まだ残っている課題 (現状の何をどのように変更する必要があるのか)

### ①困っている「状況」

- 教科教育との関係性が不明確であり、「ふるさと教育」など既存事業との連携が不十分である
- 多忙・多忙感の強い教員の関与が不十分になりがちであったり、一部の教員のみ関与にとどまったりする傾向にある
- 学校全体や地域がビジョン (教育目標) を共有できていない
- 高校内だけの取組みにとどまっていたり小中学校のニーズなどをつかみきれていない
- コーディネーターの確保や育成が困難
- 移住定住につながる強い動きには至っていない

### ②困っている状況が発生している「原因」

- 魅力化への取組 (課題解決型学習等 (地域の課題を自ら発見し、他者と協働して問題解決に向けた探求的な学習)) と教科教育の充実とが相反関係にあるとの認識が一部に残っており、既存事業における取組の深化が不十分である。中山間地域の限られた教員加配の中で、比較的教員の業務負担が大きい地域をテーマとした課題解決型学習等に取り組んでいる。高校と市町村、高校と地域や地元小中学校との連携が不十分である。コーディネーターの処遇が不安定である。県、市町村ともに教育委員会と首長部局 (定住担当課等) との連携が不十分である

### ③原因を解消するための「課題」

- 島根の子どもたちに身に付けてもらいたい力の県内全体での共有と、それを踏まえた、魅力化に係る取組と既存事業も含めた各教科教育と効果的・効率的な連携の在り方についての検討
- 校内で組織的・効果的に取り組めるよう、国の基準を超える教員の配置や研修会等人材育成の充実
- 高校と市町村とが定期的に情報共有や意見交換ができる仕組みの構築
- 高校と地域や小中学校との連携体制を確保するためのプロデュース能力のある人材の配置
- 行政内での横断的な連携が実現するための全庁的な課題としての認知
- コーディネーターのキャリアパスの検討

## 8. 今後の方向性 (課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

離島・中山間地域の高校魅力化・活性化事業の実施により県外からの入学者が増加し、学校内や地域において様々な交流が生まれ、地元出身生徒への好影響など各校で地域の特性を活かした魅力ある教育活動が徐々に展開されつつある。今後、教育魅力化推進事業では、対象の高校を拡充し県内の離島・中山間地域全体に拡大するとともに、小・中・高・特別支援学校を貫いて「教育の魅力化」に取り組む市町村を積極的に支援する。社会に開かれた学校づくりのためには、地域総がかりで組織的に取り組む必要があり、各市町村・各学校における体制が構築されるよう、県が目指す学力観と本事業の目的を共有するとともに、地域・校内の核となる人材の配置や人材育成を支援する。また、県庁内に設置された部局を横断した教育魅力化推進チームにおいて、効果的な事業実施と課題解決に向けた議論を行っている。毎年度、事業実施について改善案について検討し、各市町村の取組を支援することで、各地域における魅力の一つとして、魅力ある教育活動が展開され、地域への貢献意欲にあふれた意志ある若者が育成され、ひいてはふるさとへ人が環流する大きなうねりへと発展していくことを目指す。

事務事業評価シート別紙(3以上の成果参考指標がある場合のみ記載)

事務事業の名称	教育魅力化推進事業
---------	-----------

成果参考指標の目標(実績)

項番	成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
3	指標名	地元中学生の入学率	目標値	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0	%
			取組目標値						
	式・定義	地元高校入学者数／ 地元中学校卒業生数×100	実績値	60.0	61.0	61.0			%
			達成率	85.8	87.2	87.2	—	—	
4	指標名		目標値						
			取組目標値						
	式・定義		実績値						%
			達成率	—	—	—	—	—	
5	指標名		目標値						
			取組目標値						
	式・定義		実績値						%
			達成率	—	—	—	—	—	
6	指標名		目標値						
			取組目標値						
	式・定義		実績値						%
			達成率	—	—	—	—	—	
7	指標名		目標値						
			取組目標値						
	式・定義		実績値						%
			達成率	—	—	—	—	—	
8	指標名		目標値						
			取組目標値						
	式・定義		実績値						%
			達成率	—	—	—	—	—	
9	指標名		目標値						
			取組目標値						
	式・定義		実績値						%
			達成率	—	—	—	—	—	
10	指標名		目標値						
			取組目標値						
	式・定義		実績値						%
			達成率	—	—	—	—	—	